

わがまち歴史探訪、足もとの文化遺産への誘い
ミュージアム都留からのお知らせ

企画展 甲州俳諧展／甲斐俳壇を客観的にみる

会期 2月14日(日)まで

甲州の俳諧は、17世紀の後半に、甲府と谷村の2カ所で起こった動きから始まりました。

甲府では、江戸の俳人・岸本調和の指導のもと、地元俳人の一瀬調実らが出版活動を行います。また谷村では、松尾芭蕉が谷村藩秋元家の高山藥塲と交流を重ね、天和3年(1683)の谷村流寓や、貞享2年(1685)「野ざらし紀行」の旅の途中での訪問など、甲州との関係を深めていきます。

これらの動きは、中心であった調和・芭蕉2人の死去により、いったんは途絶えますが、宝暦年間(1751～1763年)以降には、蕉風俳諧への回帰を謳った江戸の俳人たちと、彼らの指導を受けた甲州の俳人たちが、甲州俳壇を支えていきます。

この中の1人が上矢敲氷で、幕末には都留市の俳人たちの多くが、彼の門弟となっていました。また、敲氷が受け継いだ江戸の蕉風とは別に、五味可都里が京都や名古屋など、江戸以外の蕉風を広めました。これにより、甲州には敲氷と可都里の2人を中心とした派閥が並び立つて、幕末に至ることとなります。

【用語説明】

※野ざらし紀行

松尾芭蕉が、母の墓参を目的に伊賀上野(三重県伊賀市)までの旅を記した俳諧紀行文です。江戸から東海道を通り伊賀上野で越年し、京都などを旅し、甲斐国を経て江戸へ帰還しています。

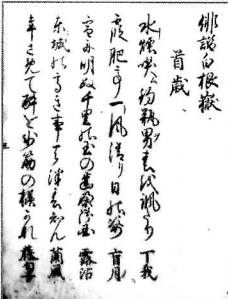
※蕉風俳諧

松尾芭蕉が大成した俳諧の概念です。

【展示資料紹介】

○『俳諧白根嶽』一瀬調実 編

貞享2年(1685)に刊行された、甲州で最も古い俳書です。天和2年(1682)に岸本調和に弟子入りした調実が、師の援助を得て出版しました。書名は、甲斐国の山名にちなむもので、内藤露沾や京極盲月などの大名俳人や、福田露言・高井立志・高野幽山など、当時の江戸における有名俳人が名をつらね、華麗な俳書となっています。



俳諧白根嶽、本文の冒頭部分です。盲月、露沾の名前があります。

○『岸本調和点巻』

元禄7年(1694)1

月8日に開かれた句会の席で、出席者が作成した句を記録し、採点したものです。調和(壺瓢軒)と、江戸俳人の二世立志(和諧堂)が10点満点で採点をし、点数ごとに称号をつけています。



岸本調和点巻

一瀬調実らを通して甲府の俳人と結びついた調和が、積極的に俳諧の指導をしている様子が分かる資料です。

○『猿橋小集』運水 編

寛政6年(1794)に刊行された、郷土の俳人・運水が出版した俳書です。連句36、発句298が収められており、発句の作者は陸奥国(東北地方)から備後国(広島県東部)まで広範囲に及んでいます。短歌・長歌、漢詩なども収められており、『甲斐国志』の郡内地域編さんを担当した森嶋弥十郎其進も漢詩を寄せています。

編者の運水は田野倉村の人で、上矢敲氷の門人とされています。猿橋の絵も入っており、絵入り俳書としても貴重なものなのです。



猿橋図

開館時間 午前9時～午後5時

観覧料 一般 300円(210円)

高・大学生 200円(140円)
小・中学生 100円(70円)

※(一)内は20名以上の団体料金です。

休館日 毎週月曜日、第3火曜日、

祝日の翌日

問合せ ミュージアム都留 ☎(45)8008

増田誠美術館企画展

『パリジャン百態②』

ルクサンブル公園は、パリ市内最大の公園でリュクサンブル庭園とも言われています。庭園内には数多くの彫像や記念碑、噴水があります。



「ルクサンブル公園の午後」

会期 2月28日(日)まで

会場 増田誠美術館(ふるさと会館2階)

開館時間 午前9時～午後4時30分

休館日 月曜日、第3火曜日、

祝日の翌日

問合せ ミュージアム都留 ☎(45)8008

情報未来館だより

エクスセル入門

対象者 市内在住18歳以上でキーボード・マウスの使える方

日程 3月7日(日)

時間 午前9時30分～正午
午後1時～4時30分

内容 入力、表の作成、書式設定、簡単な計算などを行います。

定員 15名

参加費 1,000円(テキスト代込み)

開館時間 午前9時30分～午後5時15分

休館日 2月1日(月)、8日(月)、11日

(祝)、15日(月)、22日(月)、26日(金)

申込・問合せ

情報未来館 ☎(43)1452